



2026年度第1四半期 決算説明会

エーザイ株式会社
2026年8月3日

本日の登壇者



内藤 景介

代表執行役専務
COO(兼)チーフグロースオフィサー



大山 拓也

執行役
CFO(兼)チーフIRオフィサー

2026年度第1四半期 財務ハイライト

売上収益

- **2,343億円** 前年同期比 **+15.6%**
- オーガニックビジネスである医薬品事業の大幅伸長により、2桁増収を達成

営業利益

- **247億円** 前年同期比 **+19.2%**
- 主力製品である3L*がグローバルで大幅に伸長し、2桁増益を達成

2026年度進捗

- 2026年度通期予想に対する進捗率：
売上収益(8,835億円)は**27%**、営業利益(700億円)は**35%**と着実な進捗

2026年度第1四半期 連結業績(IFRS)

- 売上収益は、2,343億円となり、前年同期比+16%の増収を達成
- 医薬品事業の大幅な伸長により、営業利益+19%、コア営業利益+14%の増益
- 通期予想達成に向けて順調に進捗

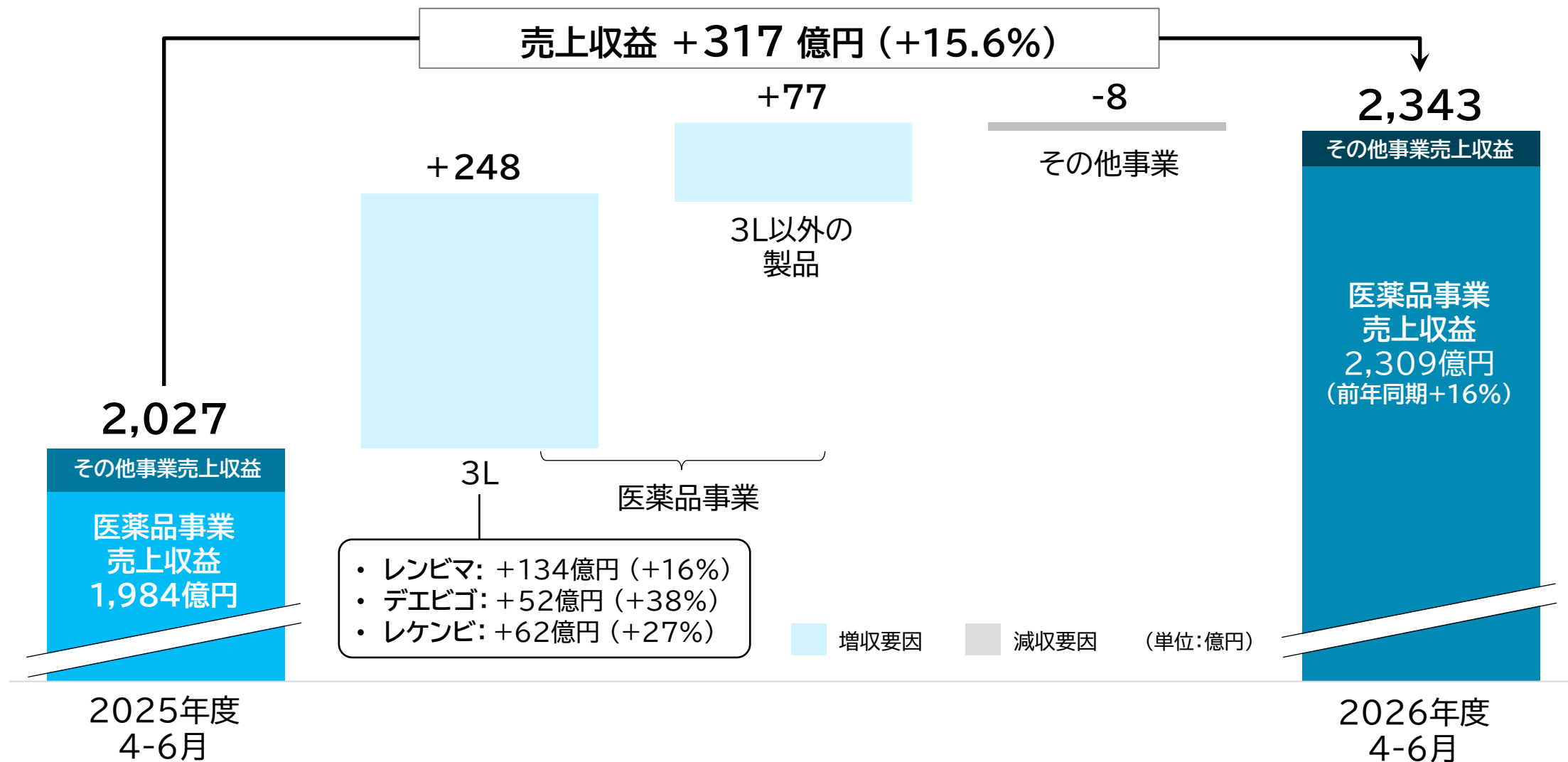
(億円)	2025年度 4-6月 実績	2026年度 4-6月 実績	対前同 増減		2026年度	
					通期予想	進捗率
売上収益	2,027	2,343	+317	+15.6%	8,835	26.5%
内 医薬品事業 売上収益	1,984	2,309	+325	+16.4%	8,700	26.5%
内 その他事業 売上収益	42	34	-8	-18.4%	135	25.4%
売上原価	426	511	+85	+19.9%	2,095	24.4%
売上原価率	21.0%	21.8%	+0.8pts	—	23.7%	—
売上総利益	1,601	1,832	+232	+14.5%	6,740	27.2%
研究開発費	388	437	+49	+12.7%	1,640	26.7%
研究開発費率	19.1%	18.7%	-0.5pts	—	18.6%	—
販売管理費	1,002	1,148	+147	+14.6%	4,415	26.0%
内 レンビマ利益折半費用	360	443	+82	+22.8%	—	—
その他の損益	-4	0	+4	—	15	1.8%
営業利益	207	247	+40	+19.2%	700	35.3%
営業利益率	10.2%	10.6%	+0.3pts	—	7.9%	—
コア営業利益*	217	247	+30	+13.9%	700	35.3%
コア営業利益率*	10.7%	10.6%	-0.2pts	—	7.9%	—
当期利益(親会社所有者帰属)	145	182	+38	+26.0%	523	34.9%
EPS(円)	51.35	64.71	+13.37	+26.0%	185.00	35.0%

*コア営業利益: 営業利益から一過性の収益・費用を除外した本質的な収益力を示す指標。

除外項目は、①製品の導出・売却に関わる損益、②有形固定資産売却損益③事業再編に伴う解雇給付費用、④のれんの減損損失⑤訴訟等による多額の賠償または和解費用

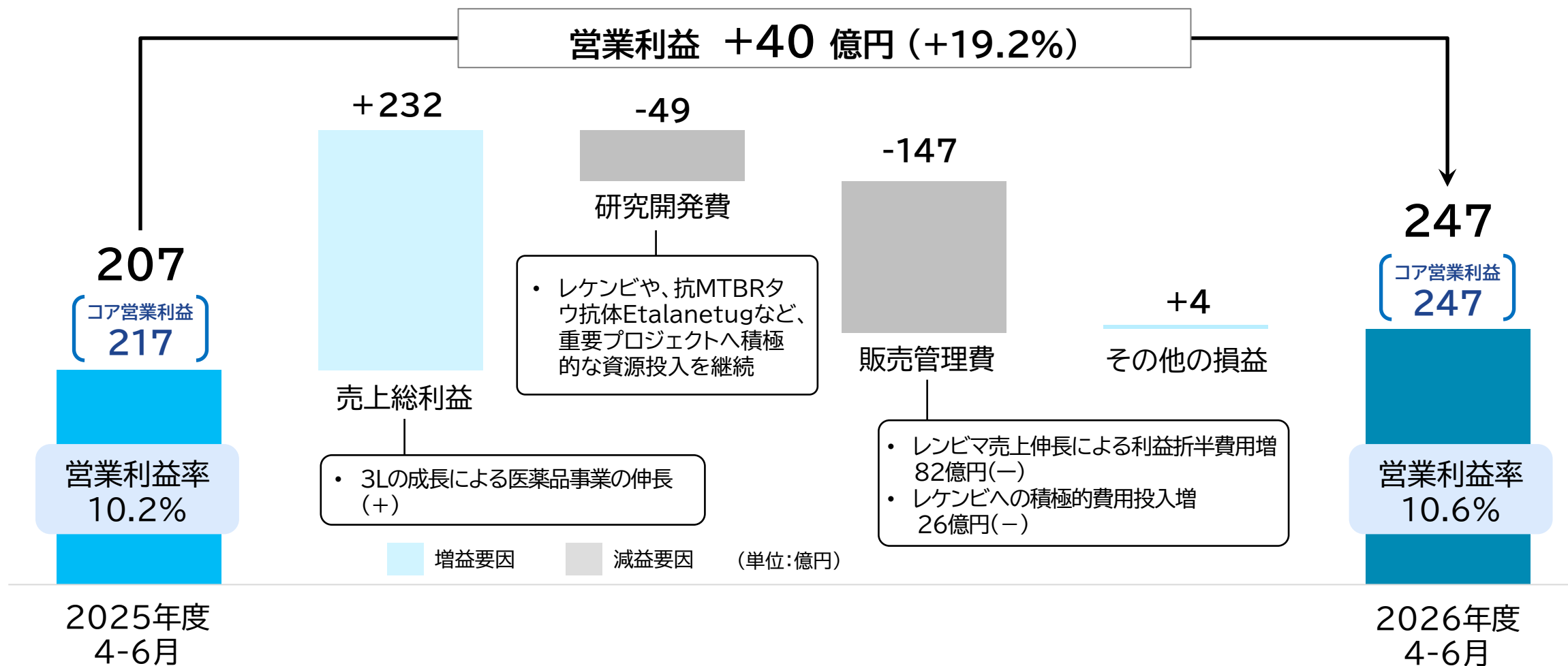
売上収益の増減要因

- 3L*の成長がけん引し、売上収益は317億円の増収
- 医薬品事業売上収益は、前年同期比+16%の2,309億円



営業利益の増減要因

- 3L*の力強い成長により、営業利益、コア営業利益ともに大幅増益



ビジネスおよびパイプライン アップデート

■ 3L*ビジネスアップデート

■ レケンビ

– 価値最大化に向けた取り組み

- IQLIK初期療法承認取得(米国)
- IQLIKの高い利便性を生かした治療基盤の構築
- レケンビ治療による長期治療価値をRWEで確認
- BBM社会実装による診断パスウェイの進化

AAIC2026

■ パイプライン

– AD Continuumにおける次世代創薬

- Etalanetugの次世代AD疾患修飾薬としての進捗
- 「Make AD Curable」の実現に向けて(Preclinical AD, Etalanetug)

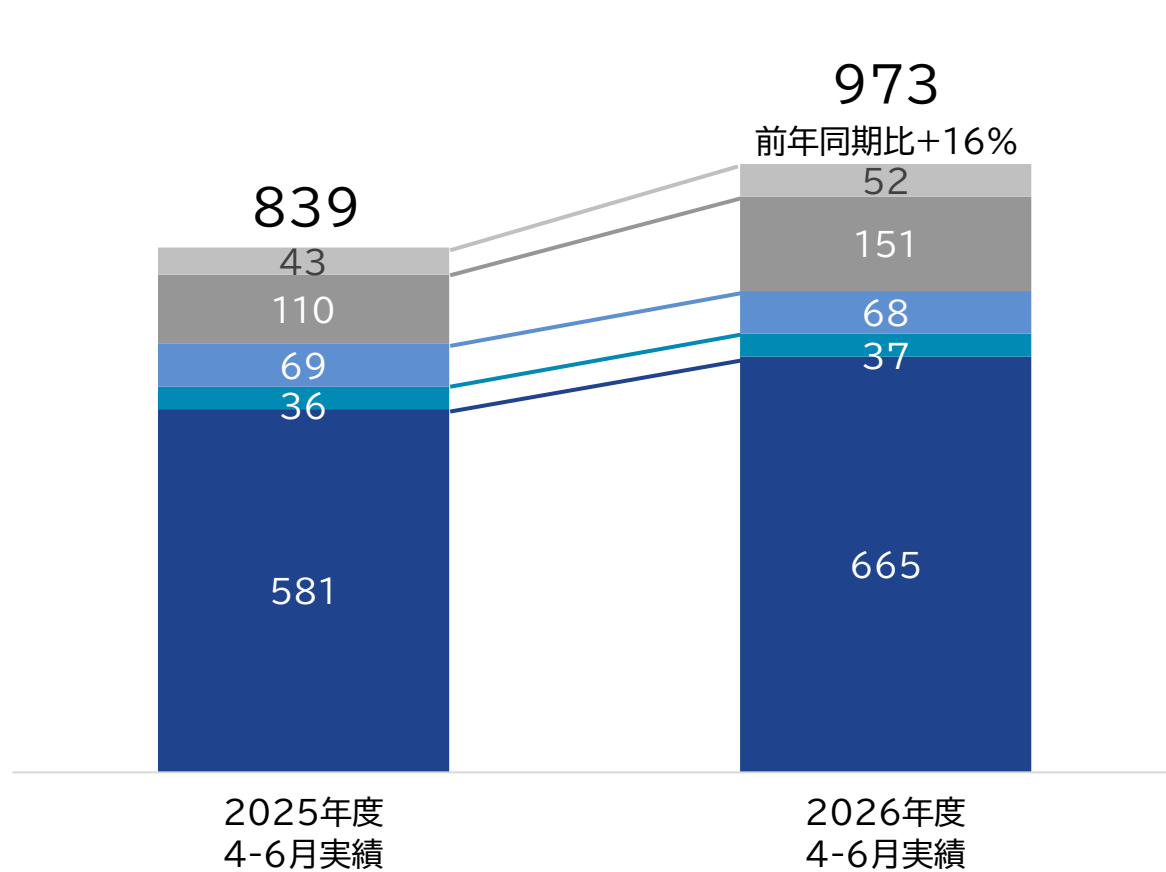
AAIC2026

- オレキシンプラットフォーム:睡眠・覚醒から脳機能ネットワーク調整
- パイプライン

抗がん剤：5がん種7適応を有する経口投与可能な自社創製マルチキナーゼ阻害剤
単剤療法およびキイトルーダとの併用療法により拡大

発売以来11年、83カ国で
約62万人に貢献

売上収益(リージョン別) (単位:億円)



為替影響に加え、米国中心に持続的な成長を果たし、成長投資を支える基盤としてのポジションを堅持し973億円(前同比+16%)に到達
通期予想3,450億円の達成を見込む

- 米国は全がん種で堅調な需要を背景に継続成長
腎細胞がん・子宮内膜がん・肝細胞がん・甲状腺がん適応でTKI*1におけるトップシェアを継続*2
- LITESPARK-011*3(レンビマ+ウェリレグ)による、抗PD-1またはPD-L1療法後の進行性腎細胞がんに対する新規適応追加、
米国PDUFA*4アクションデート 2026年10月4日

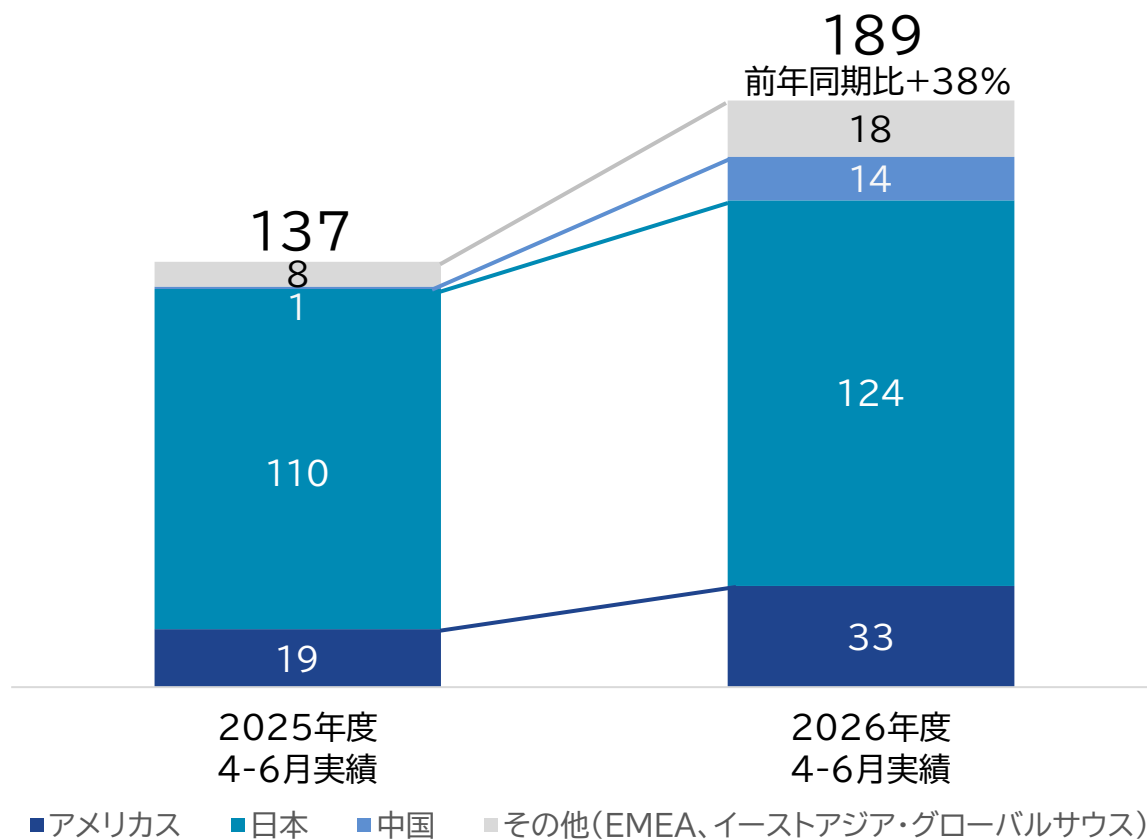
■ アメリカス ■ 日本 ■ 中国 ■ EMEA ■ イーストアジア・グローバルサウス

*1 チロシンキナーゼ阻害剤 *2 腎細胞がん・子宮内膜がん: IO(Immuno-Oncology)-IO併用療法、およびIO-TKI(Tyrosine Kinase Inhibitor)併用療法内におけるシェア、肝細胞がん・甲状腺がん: TKI単剤療法内におけるシェア。社内推計 *3 Merck & Co., Inc., Rahway, NJ, USAとのレンビマのグローバルな共同開発および共同販促を行う戦略的提携に基づく開発。Merckのウェリレグ(一般名: ベルズチファン)との併用療法。試験はMerckが主導 *4 Prescription Drug User Fee Act

不眠症治療剤：睡眠と覚醒の調整に関与するオレキシンを標的とした
自社創製の創薬プラットフォームから生み出されたオレキシן受容体拮抗薬

不眠症に係る適応で、日本、米国
など29の国と地域で承認取得済

売上収益(リージョン別) (単位:億円)



全リージョンで伸長しグローバル化が加速し
189億円(前同比+38%)に到達
通期予想735億円の達成に向け、順調に進捗

- 日本は、1剤で入眠・睡眠維持の両症状の改善訴求により、デュアルオレキシן受容体拮抗薬市場での強みを発揮し、継続成長
売上、投与患者様数ともにシェア1位*1を維持
- 米国、カナダ、中国などで順調に成長
- 7月に英国、欧州で承認申請達成 (MHRA*2、EMA*3)

アルツハイマー病(AD)治療剤:神経毒性を呈することが報告されているAβプロトフィブリルとアミロイドプラークを除去することで、ADの進行を抑制し、認知機能と日常生活機能の低下を抑制する長期投与可能な唯一の抗Aβ抗体

早期ADに係る適応で、日本、米国、中国、欧州(EU)など53の国と地域で承認取得済

売上収益(リージョン別) (単位:億円)

293

前年同期比+27%

231

77

24*4

55

91

中国における
一時的影響を
除くと
前同比+64%

48

29

61

155

2025年度
4-6月実績

2026年度
4-6月実績

■アメリカス ■日本 ■その他(EMEA、イーストアジア・グローバルサウス) ■中国

全リージョンで成長し293億円(前同比+27%)
IQLIK*1やBBM*2などの技術革新を踏まえ
通期予想1,435億円達成に向け、計画通り進捗

- 米国では、早期AD患者数およびBBM検査数の拡大を背景に、レケンビが成長を牽引し、投与患者数シェア首位*3を維持
7月13日 IQLIK初期療法 承認取得
- 日本は、昨年11月の15%薬価改定影響を吸収し継続成長
- 中国は、一部の商業保険で償還が開始、下期以降、商業保険提供の拡大を期待
- EMEAは、各国での償還協議が継続中

レケンビ価値最大化:IQLIK^{*1}初期療法承認(米国)

- レケンビは、ADの病態進行抑制に加え、認知機能・日常生活機能の低下抑制を実現する長期投与可能な唯一の抗A β 抗体
- IV^{*2}とIQLIK(SC-AI)の両製剤による投与選択肢を持つ唯一の薬剤
- IQLIKがもたらす高い利便性
 - 在宅投与を可能^{*3}とし、当事者様・ケアパートナーの通院にかかる負荷を軽減
 - 医療機関におけるIV投与関連資源への依存を低減
 - IVとIQLIK間の移行は可能



初期療法
IV(10mg/kg) 2週間毎に投与
IQLIK 500mg 週1回投与
(250mg SC-AI 2本)



維持療法
18カ月の初期療法後
IV(10mg/kg) 4週間毎に投与
IQLIK 360mg 週1回投与

AAIC2026においてSC-AIに関するエビデンスを発表:Modeling & Simulationを活用

- ・ 週1回のSC投与によりIV投与と同等の曝露量が確認され、臨床(有効性)/バイオマーカー(アミロイド除去)に対するベネフィットも同等
- ・ SC投与によるARIA-Eなどの、曝露量に関連する有害事象の発現率は、IV投与と同程度と推定
- ・ SC投与における安全性プロファイルは概ねIV投与と同様
- ・ 94%がデバイスを使いやすいと回答^{*4}

*1 オートインジェクター付きレケンビ皮下注製剤(SC-AI)の米国製品名 *2 静脈内点滴投与, IV-Infusion *3 当事者様およびケアパートナーが在宅で投与可能 *4 Turner RS, et al. Presented at the Alzheimer's Association International Conference 2025; Jul 27-31, 2025; Toronto, Canada. 患者、ケアパートナーおよび医療従事者を対象としたオートインジェクター受容性試験

レケンビ価値最大化: IQLIK^{*1}の治療基盤を構築(米国)

- IQLIK初期療法承認を契機に、**治療の始めやすさ・続けやすさ**を支える選択肢と体制を強化し、米国レケンビ成長を次のフェーズへ

IQLIKの利便性を患者様の治療アクセス向上につなげる3つの基盤

①保険償還・PA^{*2}等を含む
治療アクセスプロセスの円滑化

②必要検査・給付確認等を含む
治療開始フローの標準化・定着

③患者様へのIQLIK投与を支える
在宅投与・治療継続支援体制の強化

レケンビ売上成長への貢献

治療開始・継続を支える更なる体制の充実により、米国レケンビの中期成長を後押し

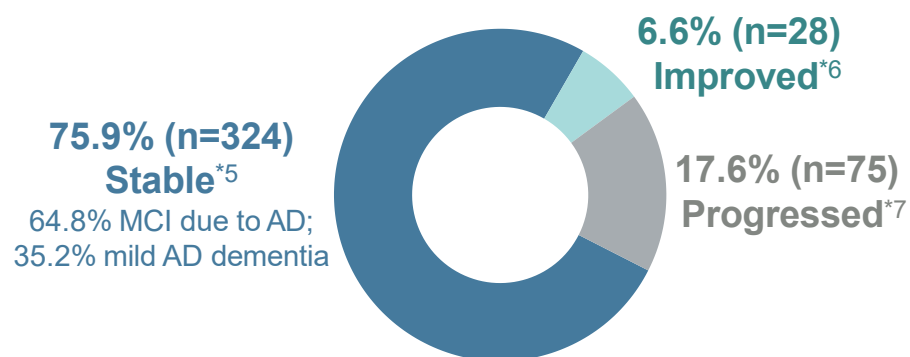
*1 オートインジェクター付きレケンビ皮下注製剤(SC-AI) 初期療法用IQLIKは2026年8月下旬に米国で発売予定

*2 PA(Prior Authorization): 薬剤の保険給付に先立ち、保険者が所定の適用要件を満たすか確認する事前承認手続き

レケンビ®価値最大化: RWE*¹が長期治療価値を支持

- 米国13施設、早期AD 432例の、LEADER研究データ*²をAAIC2026*³で発表*⁴
レケンビ®治療における長期継続治療・維持療法・安全性の一貫性を確認

Clinical Benefit



82.5%が疾患ステージを維持または改善

治療継続率

86.6%
(チャート抽出時点
N=432)

Safety

**FDA承認添付文書と整合:
ARIAは全体で12.3%**

ARIA-E 6.3%

ARIA-H 7.9%

**大半は無症候性または画像上軽度で、
脳内大出血・治療関連死亡は報告なし**

Maintenance

18カ月以降、維持療法が長期治療の主要な選択肢として実臨床で浸透

- 18カ月以上の治療継続例204例*⁸のうち、
161例*⁹(78.9%)が、IVまたはIQLIK*¹⁰による維持療法に移行して治療を継続 (チャート抽出時点)

*¹ Real-world evidence *² 平均約17カ月治療 *³ The 2026 Alzheimer's Association International Conference Annual Meeting, July 12-15, London *⁴ AAIC2026, Developing Topics Session #3-33-DEV-A *⁵ Stable:レカネマブ治療期間を通じて、ベースライン時の疾患ステージ(ADによるMCIまたは軽度AD認知症)から変化しなかった患者様 *⁶ Improvement:レカネマブ治療期間中に、ベースライン時の軽度AD認知症からADによるMCIへ移行した患者様 *⁷ Progression:レカネマブ治療期間中に、ベースライン時のADによるMCIから軽度または中等度AD認知症へ、あるいはベースライン時の軽度AD認知症から中等度AD認知症へ移行した患者様。疾患ステージは臨床的判断に基づいて評価 *⁸ 204例は、初回投与から最終フォローアップまで540日以上、かつチャート抽出時点でレカネマブ治療を継続していた患者様 *⁹ 161例は、IV維持療法継続中の155例とSC維持療法継続中の14例の合計から、両群に含まれる重複患者様8例を差し引いて算出した。重複患者様8例は、IV維持療法からSC維持療法へ移行した患者様 *¹⁰ オートインジェクター付きレケンビ皮下注製剤(SC-AI)の米国製品名

レケンビ価値最大化:BBM^{*1}社会実装による診断パスウェイの進化

■ Aβ 診断^{*2}の標準化と患者アクセス向上を通じて、レケンビ処方機会を拡大

BBMによるトリアージ・確定診断の普及と治療機会拡大



BBM トリアージ

患者様アクセス拡大: 低侵襲かつ地理的制約・検査キャパシティの制約を緩和

診断パスウェイ時間短縮: トリアージ検査によるAβ陽性率が向上し、PET/CSFリソースが効率化

BBM 確定診断

Aβ 確定診断: 高感度・高特異度BBMはPET /CSF代替としてAβ 確定診断に使用可能

p-Tau217を中心に、BBMの承認取得・インフラが進展

・ 米国:

富士レビオ (p-Tau217/Aβ1-42) 確定診断

Roche (p-Tau181) トリアージ

Aβ 確定診断を支援するIVD^{*4}承認拡大を期待

AAガイドライン発出^{*5}

CMS^{*6} 抗アミロイド療法レジストリが整備済み

Quest / Mayo / Lab Corp等で商用検査を提供

「2026年7月時点」

・ 欧州:

Roche (p-Tau181) トリアージ

Roche (p-Tau217) 確定診断

富士レビオ (p-Tau217) 確定診断

Beckman Coulter (p-Tau217) 確定診断

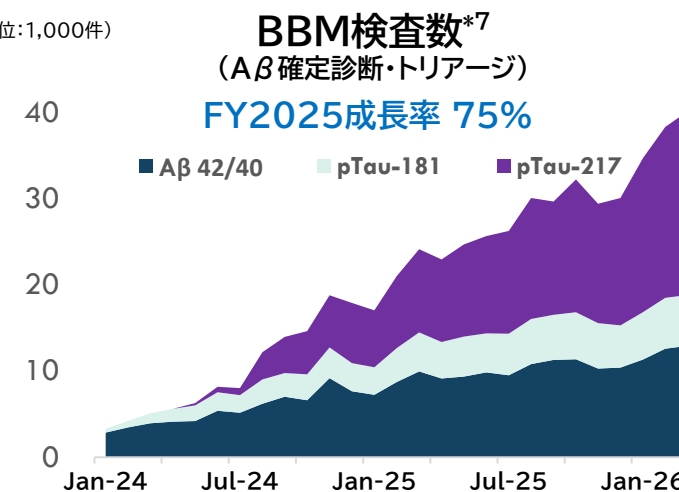
・ 日本:

シスメックス (Aβ1-42/Aβ1-40) 承認済み

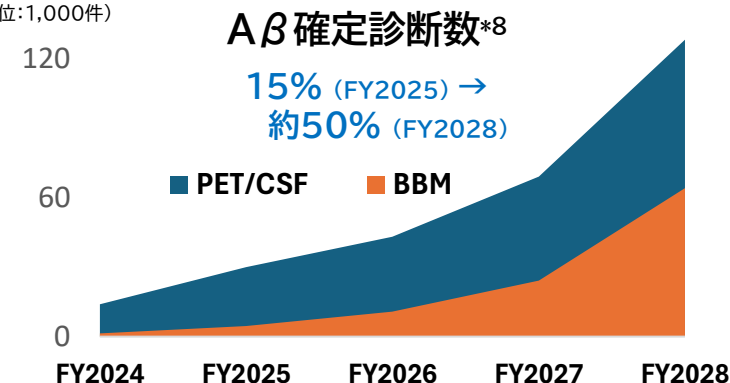
富士レビオ (p-Tau217/Aβ42) IVD申請

米国: 処方機会拡大先行指標

(単位: 1,000件)



(単位: 1,000件)



*1 Blood-Based Biomarker (血液バイオマーカー) *2 脳内Aβ病理の存在(Aβ陽性)を確認するための診断 *3 オートインジェクター付きレケンビ皮下注製剤(SC-AI)の米国製品名 *4 In Vitro Diagnostic
*5 AA: 米国アルツハイマー協会、Clinical Practice Guideline & Evidence, <https://www.alz.org/professionals/health-systems-medical-professionals/clinical-practice-guidelines-and-evidence> *6 Centers for Medicare & Medicaid Services *7 検査データは米国の主要臨床検査会社から取得、すべての検査会社で共通して実施されている検査のみを対象。主要臨床検査サービス会社の月次検査件数に基づくエーザイ社内推計 *8 クレームデータ(SiteRX data)に基づく社内推計

- MTBR-tau243は、アルツハイマー協会提唱の生物学的診断基準においてTau病理マーカー(T2)として収載^{*2}
- 血漿中eMTBR^{*3}-tau243を測定することによりEtalanetug^{*4}の薬理効果を評価しCSFと一貫した結果を確認、
eMTBR-tau243は、脳内Tau病理評価の簡便化を実現する血液バイオマーカーとして期待

臨床試験進捗状況

Tau NexGen^{*5} フェーズII/III:

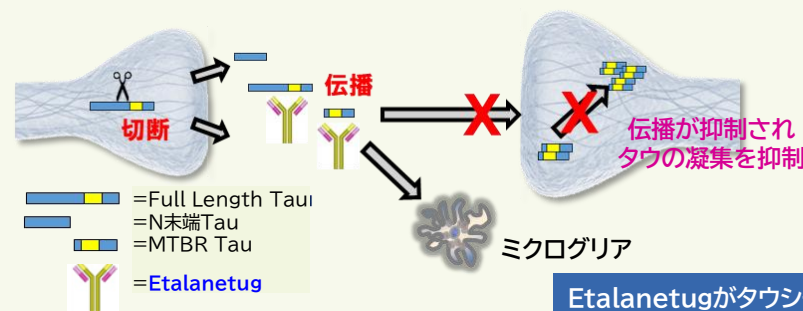
LEQEMBIとEtalanetugの併用療法(継続中)

- 対象患者: Preclinical ADからEarly AD
- トプラインデータ取得予定: 2028年度

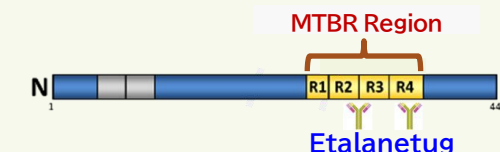
孤発性AD(sAD) フェーズII (Study 202):

LEQEMBIとEtalanetugの併用療法(継続中)

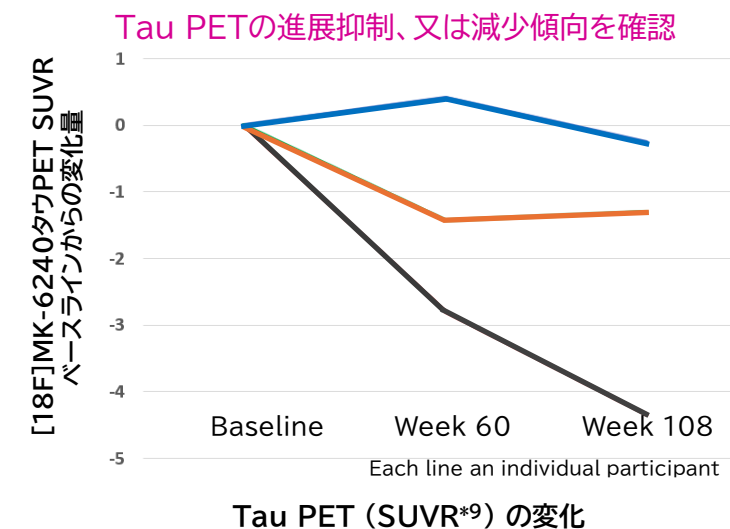
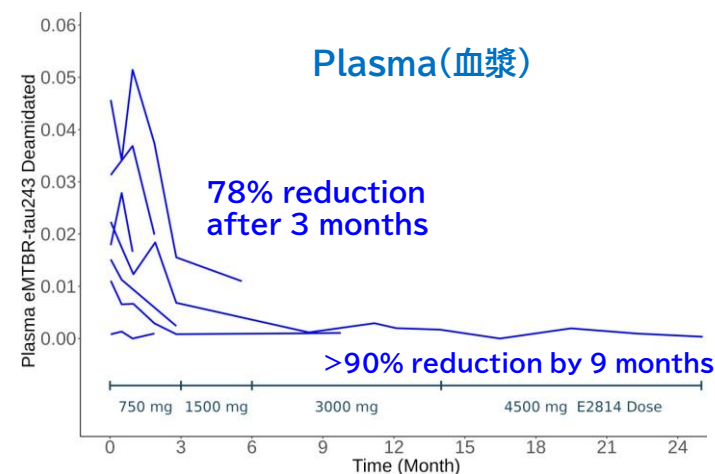
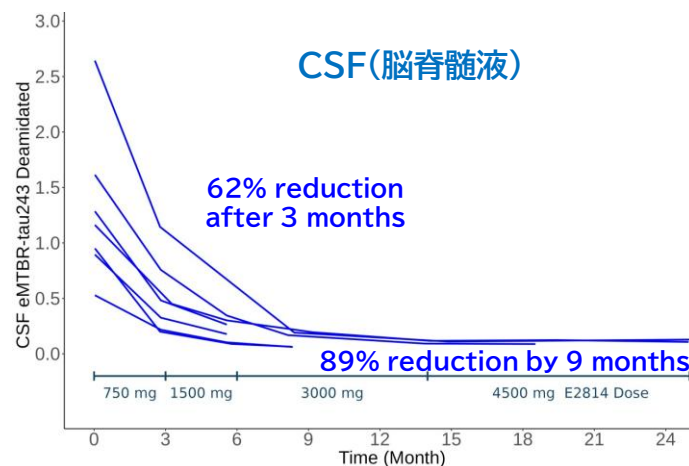
- 対象患者: Early AD
- トプラインデータ取得予定: 2027年度

DIAD^{*6} フェーズIb/II (Study 103):Target engagement並びにPOM^{*7}確認済(試験終了)

Full Length Tau蛋白

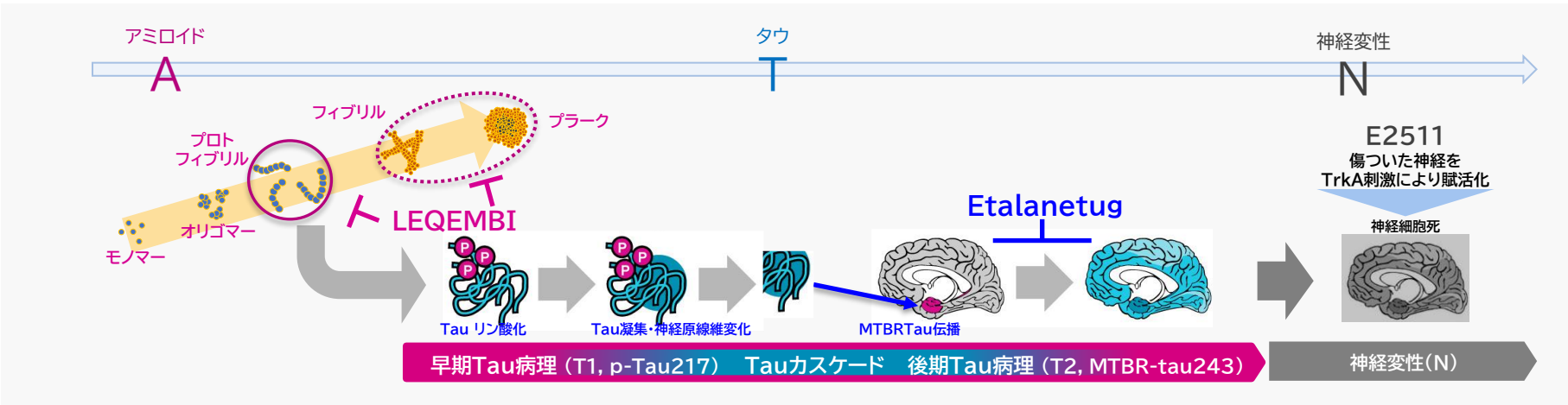


Etalanetug: DIAD患者様を対象とした試験 (103試験)

血漿 eMTBR-tau243に対するEtalanetugの効果はCSFと一致^{*8}

^{*1} ATN: Amyloid, Tau, Neurodegeneration ^{*2} Jack CR Jr, et al. Alzheimer's & Dementia. 2024.DOI: 10.1002/alz.13859 ^{*3} endogenously-cleaved Microtubule binding region ^{*4} E2814, 抗MTBRタウ抗体 (MTBR: Microtubule binding region) ^{*5} Tau Next Generation. DIAN-TU (顕性遺伝アルツハイマーネットワーク試験ユニット)が実施する臨床試験 ^{*6} Dominantly inherited Alzheimer disease. Gene mutation was confirmed in either PSEN1, PSEN2, or APP ^{*7} Proof of Mechanism ^{*8} K Wildsmith, AAIC2026 ^{*9} Standardized Uptake Value Ratio

■「Make AD Curable」の実現に向けて



症状発現前 (Preclinical AD)における投与で、
 Aβ蓄積を防ぐことでADを「発症しなくなる」

レカネマブ AHEAD3-45^{*2}

- バイオマーカーを用いた厳密な対象選択により、純粋なPreclinical ADに対する効果を検証 (グローバルCDR=0, Aβ蓄積 >40CL: A45 1,173例)
 - FDA, EMA ガイドラインを満たすフェーズⅢ試験
 - 最適投与量: A45は2年間 隔週静脈内投与と2年間 月1回の維持投与
 - 2028年度のData readoutを予定 (PACC5^{*3})

■ Preclinical ADの有病者数を約4億人^{*4}、AD-DMT^{*5}投与対象者数約230万人と想定^{*6}。レケンビ投与によりAD発症抑制を目指し、新たな治療機会と高い市場ポテンシャルを追求

もうひとつのAD病理であるTau病態の伝播を阻害し
 「病態進行を止める」

抗Tau抗体「Etalaneug」

- AD Continuum:** Tauは微小管安定化タンパク質であり、異常リン酸化により凝集して神経原線維変化を形成し、その蓄積・伝播に伴いAD病態が進行
 - Etalaneug:** Tau凝集並びに伝播に関与する領域(Tangles core) に存在するMTBR^{*7} Tauを標的とし、MTBR Tauの伝播を抑制することを目的として設計され、疾患修飾効果の実現を目指す
 - POM^{*8}確認:** DIAD^{*9}患者様を対象とした試験(103試験)でCSF並びに血漿中のeMTBR-tau243、Tau PETなど複数のバイオマーカー変化によって、Tau病理の進展を抑制する可能性を示唆

^{*1} ATN: Amyloid, Tau, Neurodegeneration ^{*2} Alzheimer’s Clinical Trials Consortiumと実施 ^{*3} Preclinical AD Cognitive Composite 5 ^{*4} 以下の論文より社内推計 A Gustavsson et al, Alzheimer’s Dementia, 2023; 19; 658-670, W Jansen et al, JAMA Neurol: 2022, 79:228-243 ^{*5} Alzheimer’s Disease Disease Modifying Treatment:アルツハイマー病疾患修飾薬 ^{*6} 社内推計 ^{*7} Microtubule binding region:微小管結合領域 ^{*8} Proof of Mechanism ^{*9} Dominantly inherited Alzheimer disease. Gene mutation was confirmed in either PSEN1, PSEN2, or APP

15

オレキシンプラットフォーム:睡眠・覚醒から脳機能ネットワーク調整にむけて

レンボレキサント: DORA*¹

不眠症

慢性不眠症*²

日本、米国、中国など承認

UK、欧州 申請中

- 不眠症治療薬:睡眠と覚醒の調整に関与するオレキシンを標的とした自社創製の創薬プラットフォームから生み出されたオレキシン受容体拮抗薬
- 日本においては、売上、投与患者数ともにシェア1位を維持し、グローバルブランドへの成長を目指す

Ledasorexton: オレキシン2受容体作動薬

- POC*³(202試験):NT1とNT2を同一試験内で評価
2026年度中のトップラインデータ取得を見込む
- オレキシン・プラットフォームの強みと、オレキシン受容体拮抗薬デエビゴの探索研究で蓄積した経験知を活かして見出した、自社創製でユニークな化学構造を有する低分子化合物
- POM*⁴(101試験)*⁵:1型ナルコレプシー (NT1) 患者様を対象にした単回投与によるPOM試験(101試験)を完了、一日一回投与において、プラセボや比較対照薬(モダフィニル)に比較して日中の過度な眠気を有意に抑制することが示された。単回投与で有効性を示した投与量において、良好な忍容性と安全性を示し、肝機能障害や視覚異常は観察されなかった

Expansion
将来の探索領域

- オレキシン創薬は、睡眠・覚醒の制御から、認知・行動・社会参加を含む日中機能を支える脳機能ネットワーク調整へと、その可能性が拡大*⁶

*¹ Dual Orexin Receptor Antagonist: デュアルオレキシン受容体拮抗薬 *² 慢性不眠症:十分な睡眠機会が確保されているにもかかわらず、入眠困難、睡眠維持困難、またはその両方が週3回以上認められ、3カ月以上持続する状態 *³ Proof of Concept *⁴ Proof of Mechanism *⁵ World Sleep 2025にて発表 *⁶ Plazzi G, et al. Sleep. 2026;49(Suppl 1):A327-A328. Lammers GJ, et al. JAMA Neurol. 2026;83:145-152. Liao Y, et al. Neuron. 2024;112:155-173.e8. Kim JG, et al. Science. 2026;391:800-806.

Neurodegeneration ATN*1 Continuum		適応症	ステージ	Key Events	3カ年計画における戦略的位置づけ*2
A Amyloid	レケンビ*3 (抗Aβプロトフィブリル抗体)	早期AD (IV 初期・維持療法)	グローバル申請・承認	初期療法承認:53カ国と地域 維持療法承認:8カ国と地域	AD Continuum Aβ 技術革新 SC-AI、BBM*6 確定診断の普及と RWE*7の蓄積により、AAT*8市場での 標準治療ポジションの確立を目指す
		早期AD (SC-AI*4 初期療法)	米国 承認済み(7月13日) 日中 申請中 (500mg)	日本承認見込み:2026年度2Q 中国承認見込み:2026年度4Q-2027年度	
		早期AD (SC-AI 維持療法)	米国:承認済み (360mg)		
		プレクリニカルAD (AHEAD3-45*5)	フェーズⅢ	トップラインデータ取得:2028年度	
T Tau	Etalanetug (E2814) (抗MTBR*9タウ抗体)	DIAD*10 (Tau NexGen*11)	フェーズⅡ/Ⅲ	トップラインデータ取得:2028年度	AD Continuum Tau 次世代創薬 eMTBR*13-tau243: タウ病理評価指標としての有用性を確認
		sAD*12 (202試験)	フェーズⅡ	トップラインデータ取得:2027年度	
N Neuro-degeneration	E2511 (TrkA*14統合シナプス再生剤)	AD	フェーズⅠ	フェーズⅠb試験準備中	AD Continuum 神経変性 次世代創薬
	E2025 (抗EphA4*15抗体)	AD	フェーズⅠ	CSFバイオマーカーデータ取得:2026年度	AD Continuum 神経変性 次世代創薬
オレキシンプラットフォーム		適応症	ステージ	Key Events	3カ年計画における戦略的位置づけ
Lemborexant (デエビゴ)		不眠症	欧州・英国 申請中		睡眠 グローバルブランドへの成長
Ledasorexton (E2086) (オレキシン2受容体作動薬)		ナルコレプシー (202試験)	フェーズⅡ	トップラインデータ取得:2026年度	覚醒 オレキシンプラットフォームの拡大
がん領域		適応症	ステージ	Key Events	3カ年計画における戦略的位置づけ
レンビマ*16 (マルチキナーゼ阻害剤)		腎細胞がんセカンドライン LITESPARK-011*17	日米 申請中	米国PDUFA*18:2026年10月4日 日本承認見込み:2026年度中	患者様貢献の持続的増大
タレトレクチニブ*19 (E7860) (ROS1キナーゼ阻害剤)		ROS1陽性 非小細胞肺がん	欧州・英国 申請中	欧州上市見込み:2027年度	導入品 パイプライン強化 (欧州)
Serplulimab*20 (抗PD-1抗体)		進展型小細胞肺がん 大腸がん 周術期胃がん	日本 フェーズⅡ フェーズⅢ フェーズⅡ	日本承認申請予定:2026年度 トップラインデータ取得:2027年度 トップラインデータ取得:2028年度	導入品 パイプライン強化 (日本)
E7386*21 (CBP*22/βカテニン阻害剤)		固形がん(102試験) レンビマとの併用	フェーズⅠb/Ⅱ	トップラインデータ取得:2026年度	社内開発品 パイプライン強化

Key Eventsのトップライン想定時期は、2026年7月15日時点のClinicalTrials.govにおける開示情報に基づく *1 ATN: Amyloid, Tau, Neurodegeneration *2 2026年5月25日に「経営戦略説明会」で発表した2026-2028年度の3カ年計画における戦略的位置づけ *3 一般名:レカナマブ *4 Subcutaneous formulation with auto injector *5 Alzheimer’s Clinical Trials Consortiumと実施 *6 Blood-based Biomarker *7 Real World Evidence *8 Anti-Amyloid Therapy *9 Microtubule binding region *10 Dominantly inherited Alzheimer’s disease *11 Dominantly Inherited Alzheimer Network - Trials Unit が実施するDIADに対する臨床試験 *12 sporadic AD *13 endogenously-cleaved Microtubule binding region *14 tropomyosin receptor kinase *15 Ephrin receptor A4 *16 一般名:レンバチニブメシル酸塩 *17 Merck & Co., Inc., Rahway, NJ, USAとのレンビマのグローバルな共同開発及び共同販促を行う戦略的提携に基づく開発。Merckのウェリレグ (一般名:ペルズチファン)との併用療法。試験はMerckが主導 *18 Prescription Drug User Fee Act *19 Nuvation Bio Inc.からの導入品 *20 Shanghai Henlius Biotech, Inc.からの導入品 *21 株式会社PRISM BioLabとの共同創出品 *22 CREB-binding Protein

本日のまとめ

経営基盤ハイライト

- ・ 3Lの力強い伸長により増収増益を実現、通期予想の達成に向け着実に前進

事業成長ハイライト

- ・ レンビマ:米国を中心に持続的に成長
- ・ デエビゴ:全リージョンで伸長しグローバル展開が加速
- ・ レケンビ:IQLIKやBBMなどの技術革新を踏まえ今後の成長に向けた取り組みが進展

製品開発ハイライト

- ・ 神経領域:ATNストーリーを軸とする次世代AD創薬を推進
- ・ オレキシン:睡眠・覚醒を起点に、オレキシン創薬の可能性が拡大
- ・ がん領域:レンビマの適応拡大と導入品開発が着実に進展

3Lの成長と次世代創薬を両輪とする持続的な企業価値向上

参考資料

連結損益計算書

(億円、%)	2025年度		2026年度						
	4-6月実績	売上比	4-6月実績	売上比	増減率	増減額	通期予想	売上比	進捗率
売上収益	2,027	100.0	2,343	100.0	15.6	317	8,835	100.0	26.5
医薬品事業 売上収益	1,984	97.9	2,309	98.5	16.4	325	8,700	98.5	26.5
その他事業 売上収益	42	2.1	34	1.5	-18.4	-8	135	1.5	25.4
売上原価	426	21.0	511	21.8	19.9	85	2,095	23.7	24.4
売上総利益	1,601	79.0	1,832	78.2	14.5	232	6,740	76.3	27.2
販売費及び一般管理費	1,002	49.4	1,148	49.0	14.6	147	4,415	50.0	26.0
研究開発費	388	19.1	437	18.7	12.7	49	1,640	18.6	26.7
その他の損益	-4	-0.2	0	0.0	—	4	15	0.2	1.8
営業利益	207	10.2	247	10.6	19.2	40	700	7.9	35.3
コア営業利益(参考情報)	217	10.7	247	10.6	13.9	30	700	7.9	35.3
四半期(当期)利益	153	7.6	192	8.2	24.9	38	540	6.1	35.5
親会社所有者	145	7.1	182	7.8	26.0	38	523	5.9	34.9

2026年度第1四半期期中平均レート 米ドル:159.49円(前期変動率+10.3%)、ユーロ:185.39円(同+13.2%)、英ポンド:213.96円(同+10.9%)、人民元:23.43円(同+17.2%)

2026年度期中平均予想レート 米ドル:153.00円、ユーロ:180.00円、英ポンド:205.00円、人民元:22.50円

セグメント売上収益

(億円、%)	2025年度		2026年度				
	4-6月実績	構成比	4-6月実績	構成比	増減率	通期予想	進捗率
医薬品事業(報告セグメント)計	1,984	97.9	2,309	98.5	16.4	8,700	26.5
日本 医薬品事業	560	27.7	579	24.7	3.4	2,335	24.8
アメリカス 医薬品事業	708	34.9	866	36.9	22.3	3,370	25.7
米国	689	34.0	838	35.7	21.6	3,240	25.8
中国 医薬品事業	365	18.0	425	18.1	16.6	1,470	28.9
EMEA 医薬品事業	190	9.4	236	10.1	24.4	730	32.4
EAGS 医薬品事業	161	8.0	202	8.6	25.3	795	25.4
その他事業	42	2.1	34	1.5	-18.4	135	25.4
連結売上収益	2,027	100.0	2,343	100.0	15.6	8,835	26.5

外部顧客に対する売上収益を示す
 当社グループは、セグメントを医薬品事業とその他事業に区分しており、医薬品事業を構成する日本、アメリカス(北米)、中国、EMEA(欧州、中東、アフリカ、ロシア、オセアニア)、
 イーストアジア・グローバルサウス(EAGS:韓国、台湾、インド、アセアン、中南米、南アフリカ等)の5つの事業セグメントを報告セグメントとしている。
 その他事業は、親会社のライセンス収入及び医薬品原料などに係る事業

(億円、%)	2025年度		2026年度			
	4-6月実績	構成比	4-6月実績	構成比	利益率	増減率
医薬品事業(報告セグメント)計	953	97.7	1,161	98.9	50.3	21.7
日本 医薬品事業	194	19.9	210	17.9	36.3	8.1
アメリカス 医薬品事業	415	42.6	519	44.3	60.0	25.0
中国 医薬品事業	179	18.4	212	18.1	49.8	18.2
EMEA 医薬品事業	82	8.4	125	10.6	52.7	51.8
EAGS 医薬品事業	82	8.4	95	8.1	46.9	15.0
その他事業	22	2.3	13	1.1	36.5	-44.0
研究開発費	-342	—	-389	—	—	13.6
親会社の本社管理費等	-426	—	-537	—	—	26.1
連結営業利益	207	—	247	—	10.6	19.2

その他事業は、親会社のライセンス収入及び医薬品原料などに係る事業

研究開発費は、各報告セグメントに反映したメディカル活動に伴う費用を除いた研究開発費

パートナーとの戦略的提携に伴う利益及び費用の折半金額を含む。当社グループがMerck & Co., Inc., Rahway, NJ, USAに支払う抗がん剤「レンビマ」の利益折半費用

(2025年度4-6月期:360億円、2026年度4-6月期:443億円)

主力品の売上収益

(億円、%、<>は現地通貨ベース)	2025年度		2026年度				
	4-6月実績	構成比	4-6月実績	構成比	増減率	通期予想	進捗率
主力品(3L)合計	1,207	—	1,455	—	20.5 <9.9>	5,620	25.9
レンビマ/Kisplyx	839	100.0	973	100.0	15.9 <4.3>	3,450	28.2
日本	36	4.3	37	3.8	3.0	135	27.3
アメリカス	581	69.2	665	68.3	14.5 <3.8>	2,425	27.4
中国	69	8.2	68	7.0	-0.9 <-15.2>	260	26.2
EMEA	110	13.2	151	15.5	36.6 <18.5>	455	33.1
EAGS	43	5.2	52	5.4	20.3 <7.7>	175	29.9
レケンビ	231	100.0	293	100.0	26.7 <16.7>	1,435	20.4
日本	55	23.7	61	20.7	10.9	330	18.4
アメリカス	91	39.3	155	52.9	70.5 <54.6>	775	20.0
中国	77	33.2	48	16.4	-37.3 <-46.4>	190	25.3
EMEA	1	0.5	5	1.8	341.2 <275.0>	—	—
EAGS	8	3.3	24	8.2	214.0 <201.3>	115	20.8
デエビゴ	137	100.0	189	100.0	37.9 <32.8>	735	25.8
日本	110	79.9	124	65.7	13.4	485	25.7
アメリカス	19	13.6	33	17.3	74.5 <58.1>	135	24.2
中国	1	0.5	14	7.4	1779.1 <1510.8>	45	31.2
EMEA	2	1.4	6	3.3	217.3 <168.4>	—	—
EAGS	6	4.4	12	6.3	95.1 <78.7>	55	21.6

日本 医薬品事業の業績

(億円、%)	2025年度		2026年度				
	4-6月実績	構成比	4-6月実績	構成比	増減率	通期予想	進捗率
売上収益	560	100.0	579	100.0	3.4	2,335	24.8
医療用医薬品	506	90.4	527	91.0	4.1	2,110	25.0
一般用医薬品等	54	9.6	52	9.0	-3.5	225	23.2
セグメント利益	194	34.7	210	36.3	8.1	—	—
日本 医療用医薬品 主力品売上収益							
デエビゴ	110	19.6	124	21.5	13.4	485	25.7
レケンビ	55	9.8	61	10.5	10.9	330	18.4
ジセレカ	43	7.6	54	9.2	25.2	190	28.2
レンビマ	36	6.4	37	6.4	3.0	135	27.3
モビコール*	21	3.7	30	5.3	48.3	171	17.8
グーフィス*	22	3.9	26	4.4	18.2	90	28.4
メチコバール	21	3.7	23	4.0	12.3	84	27.6
フィコンパ	21	3.7	22	3.8	5.8	65	34.1
リーバクト*	18	3.2	19	3.3	6.4	62	31.2
エクフィナ	18	3.2	19	3.3	8.1	70	27.4
エレンタール*	18	3.2	18	3.1	-0.4	63	28.7
日本 一般用医薬品等 主力品売上収益							
チョコラBBグループ	38	6.8	39	6.7	1.1	165	23.4

* EAファーマの
取り扱い製品

アメリカス 医薬品事業の業績

		2025年度		2026年度				
(億円、%、< >は現地通貨ベース)		4-6月実績	構成比	4-6月実績	構成比	増減率	通期予想	進捗率
売上収益		708	100.0	866	100.0	22.3 <10.9>	3,370	25.7
米国		689	97.3	838	96.7	21.6 <10.3>	3,240	25.8
セグメント利益		415	58.7	519	60.0	25.0 <14.6>	—	—
アメリカス 主力品売上収益								
レンビマ		581	82.0	665	76.8	14.5 <3.8>	2,425	27.4
米国	百万米ドル	574	—	657	—	14.6	—	—
		397	—	412	—	3.9	—	—
レケンビ		91	12.8	155	17.9	70.5 <54.6>	775	20.0
米国	百万米ドル	91	—	154	—	69.5	—	—
		63	—	97	—	53.6	—	—
デエビゴ		19	2.6	33	3.8	74.5 <58.1>	135	24.2
米国	百万米ドル	7	—	14	—	93.3	—	—
		5	—	9	—	75.3	—	—

中国 医薬品事業の業績

(億円、%、<>は現地通貨ベース)	2025年度		2026年度				
	4-6月実績	構成比	4-6月実績	構成比	増減率	通期予想	進捗率
売上収益	365	100.0	425	100.0	16.6 <-0.3>	1,470	28.9
セグメント利益	179	49.1	212	49.8	18.2 <-1.3>	—	—
中国 主力品売上収益							
レンビマ	69	18.8 —	68	16.0 —	-0.9 <-15.2>	260	26.2
メリスロン	31	8.4 —	51	12.0 —	67.1 <42.6>	—	—
レケンビ	77	21.1 —	48	11.3 —	-37.3 <-46.4>	190	25.3
メチコバール	29	7.9	37	8.6	27.7 <9.1>	—	—
ミオナール	23	6.3 —	31	7.2 —	33.7 <14.1>	—	—
セルベックス	22	6.0 —	30	7.1 —	38.2 <17.9>	—	—
アリセプト	24	6.6 —	29	6.9 —	23.1 <5.1>	—	—
強力ネオミノファーゲンシー／グリチロン錠	18	4.9 —	22	5.1 —	21.3 <3.5>	—	—
フィコンパ	14	3.7 —	18	4.2 —	32.9 <13.6>	—	—
デエビゴ	1	0.2	14	3.3	1779.1 <1510.8>	45	31.2

EMEA 医薬品事業の業績

(億円、%、<>は現地通貨ベース)	2025年度		2026年度				
	4-6月実績	構成比	4-6月実績	構成比	増減率	通期予想	進捗率
売上収益	190	100.0	236	100.0	24.4 <8.7>	730	32.4
セグメント利益	82	43.1	125	52.7	51.8 <39.7>	—	—
EMEA 主力品売上収益							
レンビマ/Kisplyx	110	58.1 —	151	63.8 —	36.6 <18.5>	455	33.1
フィコンパ	40	21.2 —	48	20.2 —	18.3 <3.9>	—	—
デエビゴ	2	1.0 —	6	2.6 —	217.3 <168.4>	—	—
レケンビ	1	0.6 —	5	2.3 —	341.2 <275.0>	—	—

イーストアジア・グローバルサウス 医薬品事業の業績

(億円、%、<>は現地通貨ベース)	2025年度		2026年度				
	4-6月実績	構成比	4-6月実績	構成比	増減率	通期予想	進捗率
売上収益	161	100.0	202	100.0	25.3 <16.2>	795	25.4
セグメント利益	82	51.1	95	46.9	15.0 <4.0>	—	—
イーストアジア・グローバルサウス 主力品売上収益							
レンビマ	43	26.9 —	52	25.9 —	20.3 <7.7>	175	29.9
アリセプト	37	23.1 —	36	17.7 —	-4.0 <-8.6>	—	—
レケンビ	8	4.7 —	24	11.8 —	214.0 <201.3>	115	20.8
デエビゴ	6	3.8	12	5.9	95.1 <78.7>	55	21.6
メチコバール	8	5.2 —	12	5.8 —	41.6 <32.7>	—	—
パリエット	10	6.2 —	12	5.7 —	15.8 <9.1>	—	—
ハラヴェン	9	5.6 —	9	4.4 —	-2.5 <-12.8>	—	—
フィコンパ	6	3.5 —	6	3.0 —	5.3 <-1.3>	—	—

将来見通しに関する注意事項

- 本資料中の目標数値はあくまで中期的戦略、めざす方向性、ビジョン等を示すものであり正式な業績予想ではありません。正式な業績予想は東京証券取引所規則に基く年次決算短信での開示をご参照ください。
- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらの文言は、現在における見込み、予測、リスクを伴う想定、実質的にこれらの文言とは異なる現実的な結論、結果を招き得る不確実性に基くものです。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。リスクや不確実性は、特に製品に関連した見通し情報に存在します。製品のリスク、不確実性には、技術的進歩、特許の競合他社による獲得、臨床試験の完了、製品の安全性ならびに効果に関するクレームや懸念、規制機関による審査期間や承認取得、国内外の保健関連改革、マネジドケア、健康管理コスト抑制への傾向、国内外の事業に影響を与える政府の法規制など、新製品開発に付随する課題などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。
- また、承認済み製品に関しては、製造およびマーケティングのリスクがあり、需要を満たす製造能力を構築する能力を欠く状況、原材料の入手困難、市場の受容が得られない場合などが含まれますが、これに限定されるものではありません。
- 新しい情報、将来の出来事もしくはその他の事項より、見通し情報に更新もしくは改正が望ましい場合であっても、それを行う意図を有するものではなく、義務を負うものではありません。
- 当社の連結財務諸表は国際会計基準(IFRS)にて開示しています。